

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紀の川市立東貴志小学校（和歌山県）

【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

端末の持ち帰りに関するガイドラインを再検討し、学校と家庭で共通理解を図っています。

《Before》

- △ 市教育委員会から配布されたガイドラインをそのまま配布し、なかなか活用できていなかった。
- △ 保護者や児童とタブレットの持ち帰りについて、丁寧に共通理解を図ることができていなかった。
- △ 持ち帰る日を全校で統一していた。（月2回）
- △ 持ち帰ったときの課題は、とりあえずデジタルドリルを出すことが多かった。

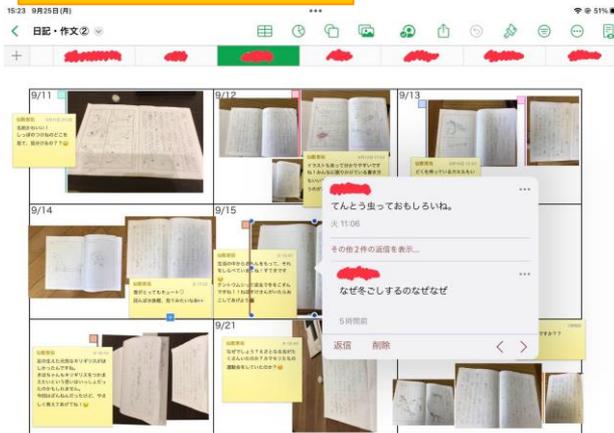
《After》

- ◎ タブレットの持ち帰るときのポイントを5つに絞り、イラストと共に示すことで、共通理解を図りやすくなった。
- ◎ 保護者に端末の持ち帰りについてアンケートをとり、その結果を共有しながら、活用を進めるようになった。
- ◎ 持ち帰る日は担任の裁量に任せられるようになり、持ち帰る頻度が上がった。
- ◎ 今までの宿題をクラウド上で共有することで、仲間とのつながりが深まったり、学校での学習の成果をビデオに撮り、それについて保護者から感想をもらったり、といった多様な家庭学習が見られるようになった。
- ◎ 毎日持ち帰る学年もあり、休んだ時の連絡やオンライン授業などをスムーズに行えるようになった。

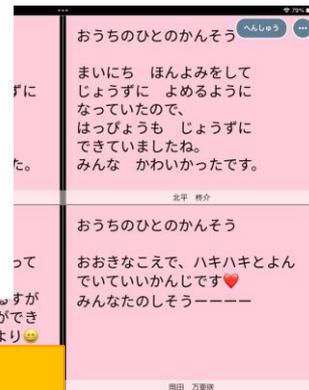
ガイドラインの見直し



日記のコメントでつながる



気になるニュースを調べる



北方領土」記事や写真、図、グラフなど



保護者の感想

たのしみに読んでいましたが、えいそうでみることでうれしかったです。ははより